

経営比較分析表（令和6年度決算）

埼玉県 桶川市

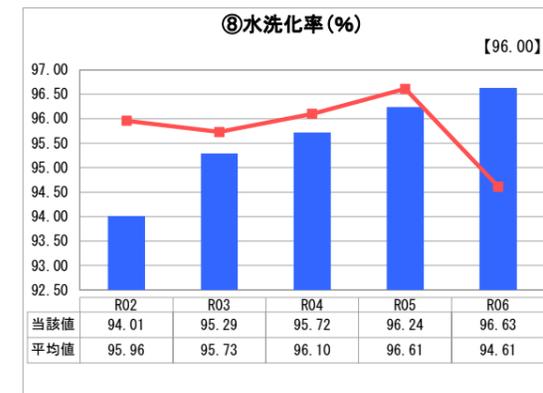
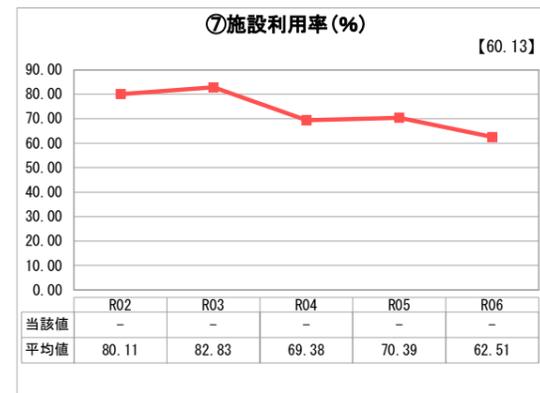
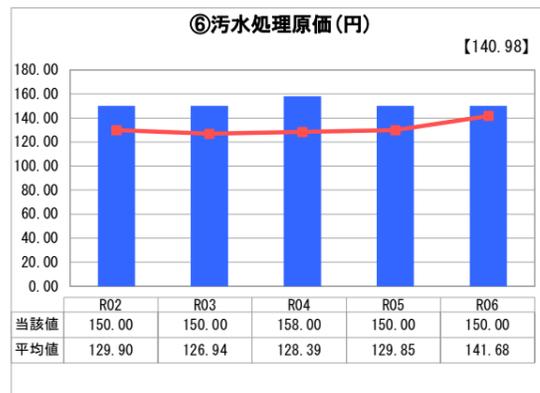
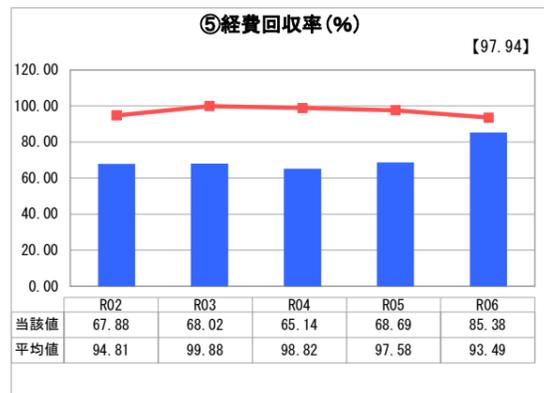
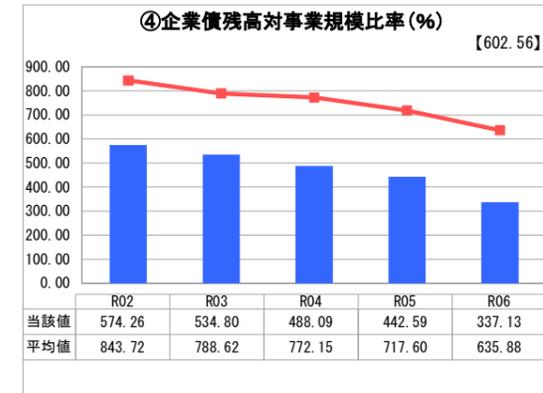
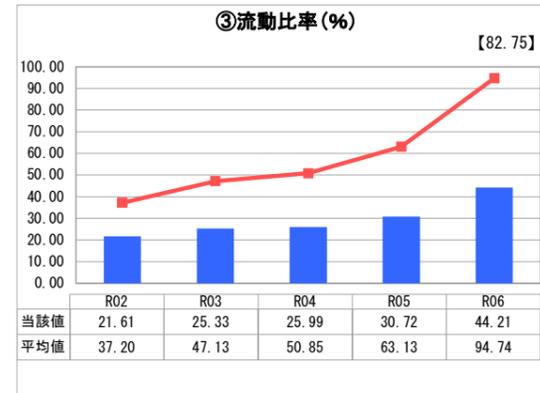
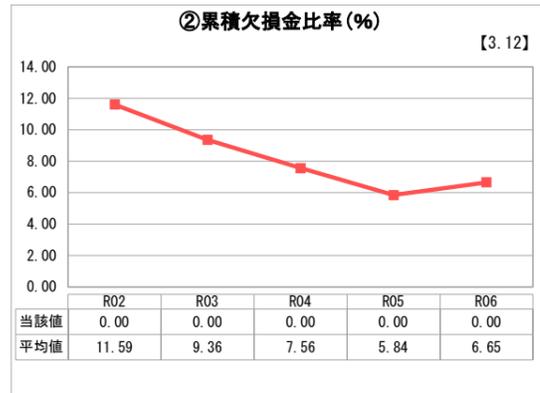
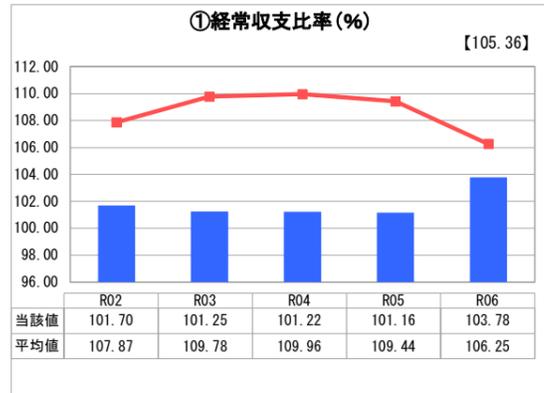
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	76.06	83.00	77.82	2,728

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
74,172	25.35	2,925.92
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
61,507	8.24	7,464.44

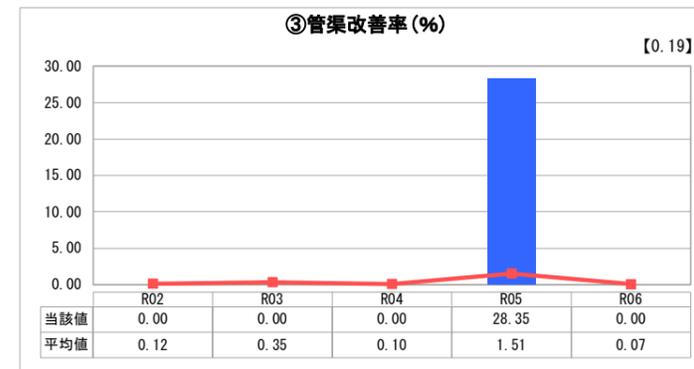
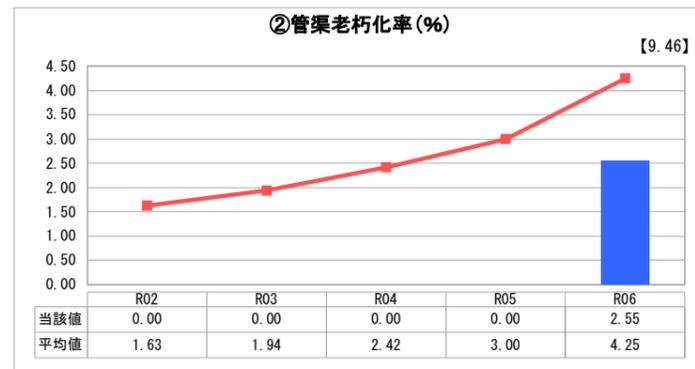
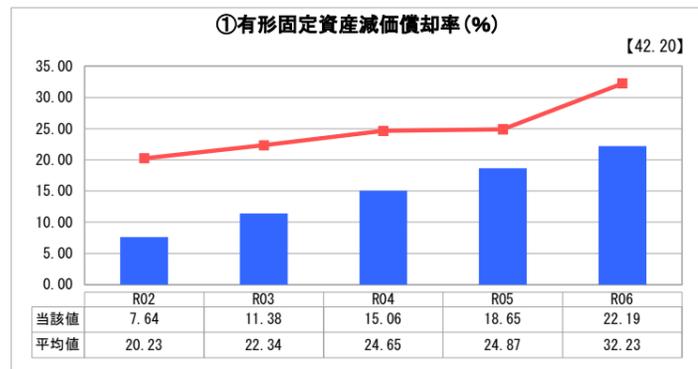
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、⑤経費回収率
 経常収支比率は100%以上だが、経費回収率は85.38%で使用料改定により改善したものの、依然低い水準となっており、本来使用料で回収すべき経費を賄えておらず、一般会計からの繰入金に依存している状況である。そのため、今後も経営改善に努めていく。

③流動比率
 100%以上であることが望ましいが、類似団体平均値より低い水準である全国平均より、更に大幅に下回る44.21%に留まっている。支払うべき債務に対する現金資産が著しく少ない状況である。常時手持ちの現金が少なく、企業債の償還時などの高額の支払いの際には、一般会計からの一時借入金に依存している状況である。

④企業債残高対事業規模比率
 平均値を下回る水準の337.13%となっている。今後は老朽管渠の更新が本格化されるため、引き続き、令和4年度に策定したストックマネジメント計画を基に効率的な投資を行っていく。

⑥汚水処理原価
 平均値を上回っている。前述のストックマネジメント計画を基に、管渠の点検・調査を経て更新等を行い、不明水対策を行うことで有収率を改善し、汚水処理費の削減を図る必要がある。

⑧水洗化率
 平均値を上回っているが、接続率向上のための周知を継続し、更なる向上を目指したい。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
 全国平均、類似団体平均値を下回っているのは、令和元年度に法適用をした際に資産を新たに取得したとみなして帳簿価額を決定しているためであり、実際は事業を開始した時期に整備した管渠の老朽化が進行しているのが実情である。

②管渠老朽化率、③管渠改善率
 管渠老朽化率は2.55%となっているが、ストックマネジメント計画に基づく調査の結果、更新が必要な管渠がなかったため、管渠改善率は0.00%となっている。今後も耐用年数を超える管渠が増えてくるので、ストックマネジメント計画を基に計画的な調査等を行う予定である。
 ※ ③管渠改善率のR05の28.35%は、0.03%の誤り。

全体総括

単年度の収支は黒字となっており、累積欠損金も発生していないが、それは一般会計からの繰入金によるところが大きく独立採算に至っていない。経営状況としては、営業損失は8億円を超えており、営業収益を増やすことが求められている。

また、管渠等の老朽化の状況としては、耐用年数を超える管渠が年々増加していく見通しである。今後、人口減少による使用料収入の減少と、管渠等の老朽化による更新費用の増加で、経営がより厳しい状況となることが明白である。営業収益を増やすためにも、引き続き使用料の適正化を行うとともに、ストックマネジメント計画を基に、効率的な投資を行っていく予定である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。